

提出日： 2024 年 4 月 1 日

研究促進期間制度 研究実績報告書

所属学部・研究科	身分	氏名
商学部	教授	久保 文克

研究期間	以下1～4より、取得した研究機関を選択し、該当番号を右欄にご記入ください。				
	<table><tbody><tr><td>1. 2023年4月 1日 ~ 2024年3月31日</td><td rowspan="4" style="text-align: center; vertical-align: middle;"><div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">1</div></td></tr><tr><td>2. 2023年9月 1日 ~ 2024年8月31日</td></tr><tr><td>3. 2023年4月 1日 ~ 2023年9月20日</td></tr><tr><td>4. 2023年9月21日 ~ 2024年3月31日</td></tr></tbody></table>	1. 2023年4月 1日 ~ 2024年3月31日	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">1</div>	2. 2023年9月 1日 ~ 2024年8月31日	3. 2023年4月 1日 ~ 2023年9月20日
1. 2023年4月 1日 ~ 2024年3月31日	<div style="border: 1px solid black; width: 40px; height: 40px; display: flex; align-items: center; justify-content: center;">1</div>				
2. 2023年9月 1日 ~ 2024年8月31日					
3. 2023年4月 1日 ~ 2023年9月20日					
4. 2023年9月21日 ~ 2024年3月31日					
活動報告	研究期間中に実施した研究活動を具体的にご記入ください。 海外活動補助費を受給した方は、海外活動の内容が分かるようにご記入ください。				
	<p>研究促進期間制度研究計画書において掲げた内容は以下の 2 点であった。1) 近代製糖業界のカルテル組織であった糖業連合会（以下、糖連と称す）について、会長を経験した台湾製糖の武智直道、大日本製糖の藤山愛一郎が果たした役割を比較することによって、台湾製糖の「準国策会社」的性格と連合会会長としての性格、いずれの性格が大きな意味を有したのかを検証する。2) 「競争を基調とした協調の模索」と位置づけた近代製糖業界について、競争と協調を両立させた糖連の分析を通して一連の研究成果を有機的に結合させ、戦前日本製糖業の全体像を文字通り明らかにする。</p> <p>まず1)に関しては、株主総会議事録が詳細に記録されていた台湾製糖と大日本製糖であったが、両社の武智直道と藤山愛一郎の糖連会長時の発言を紐解く限り、近代製糖業界最大の生産能力を有するリーディングカンパニーとしての認識を示した発言は共通して確認できたものの、台湾製糖の武智社長のような純粹民間会社の域を超えた国策性に言及した発言に関しては、大日本製糖の藤山社長に確認することができなかった。そこで重要となるのが糖連の意思決定プロセスを分析することになるが、それを可能とする理事会や会員協議会の議事録が発見されていない現状にあっては困難である。</p> <p>また2)の競争と協調の関係については、糖連のカルテルとしての競争抑制機能は1933・34年の生産制限協定に限定され、糖連の主たる機能は重層的に内包された利害対立構図を緩和させるための利害調整機能が中心となっていた。</p> <p>以上の経緯を踏まえつつ、久保がかつて史料整理を行った糖連の一連の内部史料を改めて鳥瞰しつつテーマ別に整理する中で、1)2)2つの論点に関係する糖連の協調的側面を国策性事業を通して明らかにできるのではないかと着想するに至った。具体的には、アメリカからの石油供給が禁止されて以降「燃料国策」の観点から重要性が増していった無水酒精事業、政治的・軍事的南方進出とともにこれまた重要性が増していった経済的南方進出に関わった南方開発糖業組合、糖連が関係したこれら2つの国策性事業に関しては幸い史料が現存し、しかも「極秘」や「秘」が捺印された超一級の一次史料であったことが改めて確認されたのである。</p>				

	<p>そこで研究促進期間の研究テーマを「糖業連合会の国策性事業」と現実的に捉え直し、まずは無水酒精事業の考察に集中したのであった。なお糖連台湾支部には審議プロセスを紐解くことのできる詳細な議事録が遺されており、本研究を推進していく上で極めて重要な意味を持った。</p> <p>糖連の無水酒精として考察すべきテーマとしては、①無水酒精事業をめぐる糖連本部と台湾支部の関係について、②軍事体制への移行に伴う無水酒精事業計画の変更と糖連の対応について、③無水酒精事業をめぐる最大の利害対立要因であった工業用酒精の生産設備を持つ製糖会社と持たない会社との共通利害を見出した無水酒精の生産肩替(設備を持たない会社の糖蜜を持つ会社が生産肩替)について、そして④無水酒精原料が二番糖蜜へと決定されるプロセスと生産コストと関係についてであり、それぞれ下記の論文において考察された。</p>
<p>得られた研究成果について</p>	<p>上記の研究活動の結果、得られた研究成果についてご記入ください。</p> <p>【学会報告】 「糖業連合会の国策性事業—無水酒精事業をめぐる本部と台湾支部—」 社会経済史学会第 93 回全国大会自由論題報告(都立大学, 2024 年 5 月 11 日)</p> <p>【論文】</p> <p>① 「糖業連合会の無水酒精事業とその課題—糖業連合会の国策性事業—」 『商学論纂』第 65 巻 5・6 号</p> <p>② 「糖業連合会による国策性事業への参画—無水酒精製造計画の変更を中心に—」 『商学論纂』第 66 巻 3・4 号掲載予定(脱稿)</p> <p>③ 「国策性事業をめぐる糖業連合会内の利害調整—無水酒精生産の肩替を中心に—」 『商学論纂』第 66 巻 5・6 号掲載予定(脱稿)</p> <p>④ 「無水酒精の生産コストと糖業連合会(Ⅰ)—二番糖蜜原料に至るプロセスを中心に—」 『商学論纂』第 67 巻 1・2 号掲載予定(脱稿)</p> <p>④ 「無水酒精の生産コストと糖業連合会(Ⅱ)—二番糖蜜原料に至るプロセスを中心に—」 『商学論纂』第 67 巻 3・4 号掲載予定(脱稿)</p>
<p>今後の計画について</p>	<p>得られた成果を踏まえ、今後どのように研究を発展させる計画か、ご記入ください。</p> <p>以上の論文により無水酒精事業に関しては完了したため、今後は南方開発糖業組合を対象として、糖連が経済的南方進出にいかにかコミットしていったのかについても考察を深めていく予定である。また社会経済史学会では報告し切れていない重要テーマも存在するため、経営史学会等において報告していく予定である。</p>